津軽鉄道新聞

発行日 9/25

発行者 宮川愛菜

心をいやす イベント列車

津軽鉄道には、季節限定の列車が三つあります。まず一つは、風鈴列車です。この列車は七月一日～八月三十一日まで運行されています。しかもそこで使われている風鈴は五所川原を代表する津軽金山焼です。その風鈴を客車内につるし、俳句短冊をさげた列車です。

二つ目は鈴虫列車です。この列車は九月一日～十月末まで運行されています。駅員さんが心をこめて飼育した鈴虫のかごを客車内においています。「リリリーン」という美しい鳴き声が聞けます。

三つ目はストーブ列車です。この列車は十二月一日～三月末まで運行されています。客車内にダルマストーブをつけてだんぼうとし、まどから雪景色をながめられる列車です。スルメをストーブであぶって、食べながら旅をすることができます。体だけではなく心もあったかくなります。

季節によって風鈴や鈴虫の美しい音を聞いたり、ぽかぽかした中でスルメのかおりがただよったりしながらの列車を楽しんでみませんか。

津鉄の歴史

津軽鉄道は、昭和五年に開業し、元々は陸奥鉄道として運営されていましたが、国に買収され、新しく作ったのが津軽鉄道です。

津鉄を運営しているのは？

津鉄を運営しているのは、津軽半島に鉄道路線を持っている津軽鉄道株式会社です。五所川原駅から津軽中里駅間を二〇.七Kmで結ぶ生活路線が津軽鉄道です。

駅数は十二駅で津軽二十一形一両によるワンマン運行が行われています。

津軽二十一形気動車の愛しょうは「走れメロス号」で現在は五両あります。

オリジナル「キャンパス号」

一九九七年に「SMAP×SMAP」特別企画で、香取慎吾さんと地元小学生たちが、「走れメロス号」にとそうし、「キャンパス号」として運行されていました。

車体は青色で、運転席の方にはかぶきの顔がかかれています。後ろの方には、慎吾さんをはじめ、とそうした地元小学生のサインがかかれています。

キャンパス号として、路線を走っていた列車は、現在、かせ駅に留置されています。

大ニュース！ アテンダントさんにインタビュー

津鉄に乗ってアテンダントさんにインタビューしてみました。

Q どの季節がお客さんが多いですか。

A 春と冬の季節です

Q 津鉄のみ力をおしえて下さい。

A 地元の人が大切に思っている所と地元の人の心に残っている所です。

編集後記

八月十六日に十四時十分発の列車に五所川原駅から乗りました。乗客は口名ほどでほとんどが観光客でした。私が乗ったときは、風鈴列車をやっていました。風鈴の音はとてもきれいで、すずしい感じがしました。列車から見える景色は緑色の田んぼと、鳥のサギが見え、自然が豊かな感じがしました。

地元にとても身近な津鉄のことを、県内県外の五なさんに知ってもらい、もっとたくさんの人に利用してほしいです。